

【認知症高齢者を考える会の取り組みについて】

F：私ども香南市の「認知症高齢者を考える会」は、県の委託で平成10年当時に痴呆性老人を抱える家族の会、名前を「明日葉会」と付けまして、発足したのが始まりでした。発足から既に13年余りになりますが、市町村合併のときに、家族会の存続ができるかどうか会員に諮ってみました。そうしたら、「この会のお陰で悩みを共有できて家族の辛さが癒された」とか、「ここへ来て病気を理解することができて義理のお母さんにも優しくなれた」とか、「もっともっと大変な方がいることを知って明日から私も頑張ろうと思った」等々で、「やめないで」ということを言われました。地域で独り立ちした家族会をこれまでお世話させていただけたのも、この声に応えようと取り組んだ結果にほかありません。

3年ほど前から中央東福祉保健所や香南市の地域包括支援センターが参加をしてくださり、ご支援やらアドバイスやらいただき、大変嬉しく、また心強く思っております。また当初から高知大学の精神科の先生が顧問をお引き受けくださりまして、ご家族の悩みや相談に乗っていただけるのもありがたいことです。

毎日の集いは、会員同士の情報交換や癒しの場であったり、講師の招へい、あるいはリフレッシュ、それから施設の見学等を計画しております。会員は平均30人程度です。それから会費は千円、共同募金の香南支部のほうから10万円いただいておりますので、これを講師料などに充てております。

問題点ですが、男性会員がおりません。それから介護で会に参加できないという悩みがあります。また、地域のケアマネージャーさんからの紹介が意外とありません。それから（認知症の高齢者が）亡くなったり、施設へ入ってしまうとやめられます。継続して来ていただきたいんですが、ほとんどの方が（そのご家族が）亡くなれるとやめてしまいます。これについては「明日葉会」で検討し、改善していかなければならないと思っております。

今後の取り組みとしては、最近、公的機関のご支援もいただけるようになりましたので、野市町にとどまらず、これを香南市（全域）を対象にと考えております。「明日葉会」を（旧）町単位で立ち上げて、昨年度から事務局をお願いしております香南市の社協でまとめていただけるようになれば、この会もずっと継続していけると思っております。

それから講師を招へいしての講義は、認知症という病気を理解するチャンスになればと、市民は誰でも参加できることを広報でご案内しております。ますます増加する認知症高齢者を地域で支えるための取り組みがされ、香南市でもキャラバンメイトによりサポーター養成が次々と実施をされていますが、「明日葉会」の取り組みがその一助となれるように頑張りたいと思っております。

それから県へのお願いとしては、家族会への支援ということです。たまたま私どもは共同募金から助成金をいただいておりますので、それで何とかやっていますが、ほとんどの家族会が自分たちの会費だけでやっています。ここらあたりに支援していただきたいと思っております。

それから、県東部の親戚のものが認知症になったんですけど、家族会もなければ、集りもないということで本当に途方に暮れたという話を聞きまして、高知市から東には、この「明日葉会」だけで、東には皆無です。高知市から西には9つぐらいあります。是非、県のほうから声をかけていただきたいと思います。

また、家族への支援が少ないように思います。(健康長寿県構想のパンフレットに)「認知症の方々や家族を支える地域の支援ネットワークの構築の取り組み」とありますが、どんなことやっているのか教えてください。

それから障害児や認知症のご本人へのサービスというのは、かなりきめ細やかにしていると思いますが、そのご家族への支援がないと思います。DV(ドメスティックバイオレンス)も加害者のほうへのケアがない。やっぱりこれも病気の一つだと思いますので、是非、加害者のほうへのケアということもお願いしたいと思います。

知事：女性相談支援センターというのを作って、DVの被害者の女性家族の皆さんが駆け込んできて、多くの方にご利用いただいているんですけど、加害者への支援ということですか。

F：私は人権の研修に言った時に、随分そちらのほうのサービス(被害者側の対策)はあるけど、加害者のほう(の原因)を消さないと、何も意味がないと。それから、やっていかないと少しも減らないと思ったんですけど、その後も進んでないようです。

知事：かなりケースバイケースのところもあったりして、難しいところがあるかもしれませんが。また、先ほどのお話で高知市から東は、「明日葉会」さん以外は家族会がないということですか。(他にも準備しているところが)できていってるようですが、多くてたまらぬということはない、数が少ないから大変だということでしょうね。

今年特に新しい取り組みとしてやろうとしているのが、認知症疾患医療センターを設置して、随時いろんな方のご相談を受けられるような仕組みづくりもしているんですが、より基幹となる部分について、医療センターのほうには新しい精神病棟も建てようとしているところなので、そういうところとも連携していきながら、地域別の認知症疾患医療センターを作って、数を増やしていこうとしたりしています。

でも、認知症疾患医療センターというのは、まだ高知市だけですからね。まだ県内にとってもじゃないけど行き渡っている状況じゃない、そういうものを増やしていかないといけないと思いますが、ただ今おっしゃったように、本当に家族同士で支え合っていくことで、ノウハウの共有とお互い勇気づけられるということもたくさんあるんでしょうね。そのような家族同士のネットワークづくりを実施したりもしているんですが、香南市より以東はないということであれば、それはいけませんね。それは対応したほうがいいですね。

(県の長寿県構想の取り組みとしては)認知症の理解と家族支援スキルアップ研修事業

とか、いろんな研修や養成講座などをやったり、交流会みたいなものを実施したりしているようなんですが、もっと言えば、声掛けをしていって、家族会を結成していくようなきっかけづくりのようなことを県などが是非取り組んでいければいいかもしれませんね。そういう取り組みと絡めていろいろその他の分でもご支援申し上げることがあるのかもしれない。また我々も応援していただくようなこともあるかと思います。ご指摘ごもっともだと思います。

今やっていることについては、また詳しくご説明に伺わせていただきますので、そのときいろいろ教えていただいて、家族のネットワークのバックアップができる体制について、次の（健康長寿県構想の）バージョン3にしていくときには、是非そのような取り組みができればと思います。